

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
 〒680-0061鳥取市立川町六丁目176番地
 東教発 R 5. 9. 1 No.177
<https://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

第一段階は「人材の育成」

局長 徳高 雄一郎

「これからもわからないことだらけで、先輩や同僚に質問しなければならないことがたくさんあると思います。今後、先輩や同僚に質問するときは、少しでも自分なりの答え（解決策）を考えてから質問するようにしてください。例えば、『〇〇の対応について教えてください。』と質問するよりも、『〇〇の対応について、□□と考えましたが、いかがでしょうか？』のように質問してください。決して答え（解決策）の案なしのまま質問しないようにしてください。」

これは、私が前期学校訪問において、初任者（多くが県外出身の新卒者）や新卒講師との面談の中で共通して伝えた内容です。

今年の前期学校訪問（5/11～7/14）では、69校中58校を訪問し、初任者や新卒講師の面談を行いました。現場経験の少ない初任者や新卒講師の皆さんは、授業づくり、子ども・保護者対応、分掌の仕事等、わからないことが多い上、早急な対応が必要となるため、すぐに答えを求めてしまいがちです。しかし、先輩や同僚に質問する前に、自分自身の力で解決への原案を少しでも考えていただきたいと思います。この時こそが、成長する最大のチャンスだと思うからです。

初任者や新卒講師の周囲にいる教職員には、初任者や新卒講師がまず自分自身の力で答えを考えるのを、是非、じっくり待って、温かく受け止めていただき、適切な支援をお願いします。

多くの学校が「学力向上」「不登校対策」を重点課題として掲げています。私はその解決への第一段階は「人材の育成」、特に「現場経験の浅い教職員の育成」であると考えます。

9月下旬から12月上旬まで後期学校訪問の期間となります。今後も、各学校における実態を踏まえた人材育成のさらなる充実を期待します。

令和5年度 とっとり学力・学習状況調査 ～結果分析から活用に向けて～ ★結果返却★ 令和5年9月27日（水）

5月8日から5月19日までの期間に、小学校4年生～中学校3年生を対象に「とっとり学力・学習状況調査」が実施されました。ここでは、この調査の特長や分析及び活用に向けて紹介します。

とっとり学力・学習状況調査の

特長1 「3つの特長」

毎年の学力調査の結果を見比べることにより、1年間の学習の積み重ねを「学力の伸び」として見ることができます。

特長2

質問紙調査（アンケート）の結果から、ルールやマナーを守る意識や、目標に向けて粘り強くやり抜く力などがどれだけ身についているのかが見えるようになります。これらの力は学力と強く関係しているといわれています。

特長3

調査結果から、学力を伸ばしている効果的な指導方法を明確にし、授業改善や児童一人一人に応じた指導・支援をさらに充実させることができます。

結果分析に必要な「3つの視点」

学力レベル 学習方略 非認知能力

この視点から子どもたちの状況や伸びを捉えていきます。

- 帳票40
- 分析シート
学校用1、学校用2、学校用3、個人用

伸びに注目して見てみましょう。

【分析することで見えてくること】

- ・児童生徒の状況や伸び
- ・校内研究の取組の成果や課題
- ・先生方の取組の成果や課題
- ・その他

※詳しい分析方法については、東部通信号外第4号をご覧ください。

分析

成果・課題

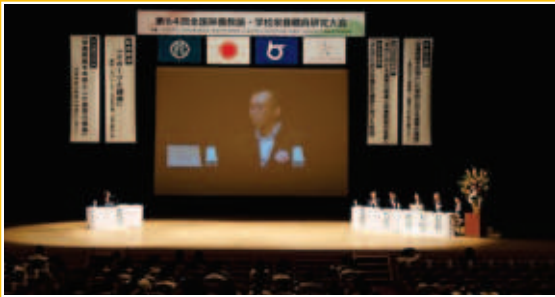
見直し・改善

まもなく結果が返却されます。県や市町村の平均と比べて、数値が高いか低いかは目が向きがちですが、まずは各学校においてどこがどう伸びたのか、全体や部分の「伸び」に着目し、変容を見取っていくことが大切です。成果と課題を把握し、改善のための手立てを考え、これまでの取組の見直しや授業改善につなげていきましょう。

全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会を終えて



去る8月3日、4日の二日間、とりぎん文化会館をメイン会場として、標記の会が開催されました。約700名の参加者が一堂に会する中、シンポジウム『「栄養教諭を中核とした食育の推進」～栄養教諭の職務の明確化に向けて～』では、鳥取市立明德小学校における取組を吉田 幸恵校長と昨年度まで勤務されていた竹内 聡栄養教諭がシンポジストとして登壇され、実践を紹介されました。また、分科会では、東部地区の3名の栄養教諭も実践発表されました。いずれの発表も、地域や学校の現状に合わせた取組であり、多くの参加者から共感される内容でした。



栄養教諭さんや学校栄養職員さん、調理員さんのおかげで、安心・安全な給食が提供されているのですね。



「栄養教諭の専門性を生かした障害のある児童生徒一人一人に応じた学校給食の提供と食に関する指導の在り方」
鳥取養護学校 田中 美菜 栄養教諭



「栄養教諭の専門性を生かした児童生徒への個別な相談指導の進め方」
鳥取市立倉田小学校
上田 志津子 栄養教諭



「衛生管理責任者としての栄養教諭の役割」
八頭町立郡家西小学校
岩崎 絵里 栄養教諭

今回の発表に向けて、栄養教諭の皆さんが積極的に情報交換や研修の機会を持ち、協働して発表の準備を進められました。そのうちの1回でしたが、局も参加させていただき、「東部地区の栄養教諭のチームワークにより、東部地区の学校給食や食の安全が確保されている。また、食育も推進されている。」と実感しました。今回は、学校の教育活動と栄養教諭の専門性のコラボレーションについて提案します。

例えば、このような学習はいかがでしょうか！

（生活科や社会科）

○地域の農業や水産業などに目を向ける機会として、栄養教諭の説明を聞いたり、給食センター見学を通して調理に携わる職員の姿を見たり質問をしたりすることで、食材や働いている人への関心を高めたり、「食」の大切さに気付いたりできます。

（家庭科）

○「A家族・家庭生活」の「家族との触れ合いや団らんの大切さ」の学びの中で、栄養教諭に「食」を通じた工夫について話していただいたり、身につけた技能を発揮して作ることができる料理を紹介していただいたりすることができます。

○「B衣食住の生活」の「食生活(1)食事の役割(2)調理の基礎」の学習にゲスト・ティーチャーとして協力していただいたり、実際に説明を聞いたりすることで、一層、学ぶ意欲が高まることが期待できます。

○「食生活(3)栄養を考えた食事」では、給食献立を教材化したり、バランスの良いオリジナル献立を栄養教諭に提案したりすることで、栄養バランスや彩りなどの指導事項に触れることができます。

※小学校の学習内容を基に提案していますが、中学校においても教科等とのつながりを意識した取組が可能です。

東部地区の小中学校で、栄養教諭や学校栄養職員等が配置されている学校は12校ですが、給食の受配校として栄養教諭等と関わる機会はその学校にもあります。

各学校で作成されている「食育の全体計画」等の中に栄養教諭等の専門性を取り入れた学習活動を組み込んでみませんか。

これまでの学習に一工夫加えた「食育」の学習活動が展開されることを期待しています。